

# 東京デザイン専門学校

## 学校関係者評価報告書

(平成21年度)

実施日＝平成 21 年 11 月 12 日・17 日

学校法人原宿学園  
東京デザイン専門学校

## 東京デザイン専門学校 学校関係者評価報告書について

学校法人原宿学園東京デザイン専門学校は、すべての教育活動・業務において、現状を点検し、改善・向上を図るために、平成15年度より学校自己評価に取り組み、平成20年3月には「学校自己評価報告書」を取りまとめて、公開いたしました。

また、平成21年度には、本校に関係の深い方々のご意見を幅広くお聞きし、教育・学園運営に反映させるべく、学校関係者評価を実施いたしました。多くの貴重なご意見をいただき、今後の施策に反映させていただくとともに学校評価の重要性をあらためて認識しているところです。ここに、その内容をご報告いたします。

今後も、より良い教育、より良い学校を目指し教職員一同、努力して参る所存です。引き続き、ご支援、ご指導をお願い申し上げます。

平成 22 年 3 月

学校法人原宿学園

東京デザイン専門学校

学校長・学校評価委員会委員長

今村 昭秀

### 学校関係者評価の実施方法について

学校関係者評価の実施にあたっては学校教育法施行規則の規定および文部科学省等、関係行政機関のご指導をふまえ、在学生保護者、卒業生、デザイン関連業界、学識経験者など10名の方々に評価者となっていただきました。(プロフィールは次頁をご参照ください)

評価者の方々に「学校自己評価報告書」を事前にお読みいただいた上で、ご来校いただき、授業見学、施設見学をしていただいた後、ご意見をいただきました。

ご意見は学校長以下、教職員で組織する学校評価委員会が承り、評価項目ごとに要約させていただき、本報告書に取りまとめました。学校自己評価報告書(平成 21 年度版)と併せてお読みください。

学校評価委員会

## 学校関係者評価者ご紹介

\* 属性別50音順

### 【在学生保護者】

イラストレーション科2年生保護者の方  
グラフィックデザイン科1年生保護者の方  
ビジュアルデザイン科2年生保護者の方

\* 本文では「VD科保護者」「G科保護者」「IL科保護者」と略させていただきます。

### 【求人企業・業界団体】

株式会社日本デザインセンター 代表取締役  
社団法人日本広告制作協会 理事長

鈴木 清文 氏

株式会社タイム 代表取締役会長

鈴木 康之 氏

社団法人日本ディスプレイデザイン協会 会長

山田 昌之 氏

### 【卒業生】

株式会社エステー企画 計画部 取締役部長  
東京デザイン専門学校校友会 会長  
ディスプレイデザイン科卒業

鈴木 保 氏

アートディレクター

東京デザイン専門学校校友会 副会長

グラフィックデザイン科卒業

相澤 竹夫 氏

### 【学識経験者】

東京デザイン専門学校ジュエリー・クラフト科 元学科長  
学校法人原宿学園 評議員

遠藤 トヨ子 氏

商店街振興組合原宿表参道櫛会 副理事長

株式会社オールファッションアート研究所 代表取締役社長

松本 ルキ 氏

※本校は次の団体の賛助会員です。

社団法人日本広告制作協会 <http://www.oac.or.jp/>

社団法人日本ディスプレイデザイン協会 <http://www.dda.or.jp/>

商店街振興組合原宿表参道櫛会 <http://www.omotesando.or.jp/>

## 基準1 教育理念・目的・育成人材像

### 評価者意見

- クリエイティブワークにはコミュニケーション能力が重要だが、現在の若者には欠落している部分であり、教育現場でも育成してほしい。(山田氏)
- グラフィックデザインの持つ華やかなイメージに夢を持っている学生が多いが、現実を見据えて、不況の現在のような状況からも夢を創り上げていくことが大切。コミュニケーション能力の低下を感じるので、教育でも力を入れてほしい。(鈴木康之氏)
- 理念・理想・夢を掲げることは大切。今後も作り上げてほしい。(鈴木保氏)
- 「原宿」という立地から流行の発信地、新しいものを作り出すイメージがあるが、昔からの閑静な住宅地にあり、古いものにも接することができる良い環境だと思う。(VD科保護者)
- 企業は採用にあたって人間性を見ている。豊かな人間性をもった人材を育て、社会に送り出してほしい。技術を磨く専門学校として、専門性と豊かな人間性を両立した教育に取り組むことが重要。(鈴木清文氏)
- 学校への行き帰りだけでもデザインを感じ取れる良い環境にある。卒業がゴールではなく、社会に出てからも、また原宿に戻って、学校の友人や先生と話し合える機会をつくってほしいと思う。(松本氏)
- 「原宿」の環境はとても恵まれていると思う。若い人には学校で得たことを、「デザインを通して社会に還元していく」ということを意識してほしい。(鈴木清文氏)

## 基準2 学校運営

### 学校評価委員会コメント

基準2「学校運営」については評価者からのご意見はありませんでした。

## 基準3 教育活動

### 評価者意見

- 学生は課題に負われる日々だが、とても充実しているようだ。先生も熱意があり、一生懸命教えてくれている。設備も十分整っていると思う。(G科保護者)
- 普通高校出身で初心者だったため、基礎をしっかり学べることを重視して学校選びをした。授業はきびしいが、講師のアドバイスの的確で満足している様子。また、生き生きとして開放的で親しみやすさがある。(IL科保護者)
- グラフィックデザインの仕事はパソコンと向き合う時間が長く、孤独になりがち。昔のような手作業が減っている現在はその傾向が強く、精神的に弱いと続かない。生活の哲学が必要だと思う。時には精神面のケアも必要。(相澤氏)
- 図面を見れば、デジタルか手描きかは一目瞭然。現在はパソコンでの作業が主流だが、アナログ(手描き)もとても重要である。授業で平行定規を使った手作業が取り入れられているのを見て安心した。学生はデザイナーやクリエイターを志望していると思うが、実際の仕事は現場から始まるもの。社会に出た時に感じるギャップも、授業の中できちんと伝えることも大切だと思う。(鈴木保氏)
- 新卒の社会人にはひ弱さを感じる。ロマンや希望がなく、現状に満足していると成長はない。常に自己啓発ができる人間育成を望みたい。(山田氏)
- 企業では遅刻が一番困る。生活や健康を管理することも仕事であり、デザインもコミュニケーションも健康でないと出来ない。仕事に臨む姿勢と、作業する時に背筋を伸ばした良い姿勢を大切にしてほしい。(鈴木康之氏)
- コミュニケーションは自宅、学校において日々意識することで自然に身についていくもの。就職活動では作品だけでなく、プレゼンテーションや言葉遣いも重要視される。日々心がけていけば出来るようになる。(遠藤氏)
- スケジュール管理、コスト管理の基礎的なことをカリキュラムに取り入れてほしい。実際の仕事や将来、独立する時に必ず役に立つ。グラフィック系企業だけではない。マンガやアニメーションでは特にきびしい。業界人の講義も有効ではないか。(鈴木清文氏)

□スケジュール管理は意識の問題。意識と常識があれば言われなくても次にやるべきことが分かるはず。そうしたあたりまえのことが出来ない人がいると、学校の評価も下がってしまう。(松本氏)

□プロは時間に値段をつけて売ることが出来る。カリキュラムの中で、そういったことにも少しでも触れていってほしい。(鈴木清文氏)

## 基準4 教育成果

### 評価者意見

□現在、グラフィックデザイン業界は非常にきびい状況下であり、従来の紙媒体だけでは生き残りが難しい。ウェブなどさまざまな分野に仕事の幅を広げる必要がある。他の業種でも、たとえばカメラマンが撮影だけでなく3D映像編集も求められるケースがある。そうした状況をふまえて学生の将来を考えた時、短い修業期間で困難を伴うとは思いますが、ウェブなどさまざまなことに取組まないといけないと思う。(鈴木清文氏)

□ウェブ制作、店舗設計などデザインから実制作までトータルで出来る人材が求められている。就職の面でも「人間力」、「コミュニケーション能力」が必要になってくる。(松本氏)

□「退学率の低減」が評価項目にあがっているが、事情によっては必ずしも低減につながらなくても良いケースもあるのではないかと。卒業自体が難しく、本校を卒業したこと自体がステータスになるような専門教育を追及しても良い。学生時代のきびしい経験が社会に出た時、役立つはず。(松本氏)

□学校経営を考えると、退学を避けたいため甘くなってしまう面もあるのではないかと。退学率の低減は学校の責任であることを前提にしなければならない。進級のハードルを高くして2年制のところ、3年間通わせるなどの方法も考えられる。進級はきびしく、しかし、しっかりやれば卒業できるというような工夫が必要。(鈴木清文氏)

□就職に対する心構えとして、やりたい仕事をすぐにやらせてもらえる訳ではないことを理解し、忍耐力をつけることが重要。(鈴木保氏)

□デザイン関係は中小企業が多く、大企業のイメージで就職するとギャップがある、現場を体験できる授業があると良いと思う。(山田氏)

## 基準5 学生支援

### 評価者意見

- 保護者向けメールマガジン配信など学校からの情報発信は多いと思う。風通しが良く、オープンなイメージを持っている。保護者としても親しみやすい。(VD科保護者)
- 学生は先生が現場ではどのような仕事をしているかに関心がある。社会に出れば学生時代のように甘い考えでは通用しないと思うので、講師から現場での様子について十分教えてほしい。(IL科保護者)
- 不況のため就職できるかが心配。来年度、就職活動になるが、昨今の社会情勢から不安が大きいので、いつでも相談に乗ってもらえる、話しやすい環境づくりをお願いしたい。(G科保護者)

## 基準6 教育環境

### 評価者意見

- 設備は全般的に非常に良い。恵まれた環境で勉強できていると思うが、逆に甘えが出てしまうこともあるのではないかと。(鈴木保氏)
- ジュエリー・クラフト科(現クラフト・アクセサリー科)ではバーナーを使い危険なので、講師をしていた際は、エプロン着用と長髪は束ねることを徹底していた。おしゃれを気にかけ髪を束ねたがらない学生もいるかと思うが、徹底してほしい。(遠藤氏)
- 非常時の避難場所がわかりづらい。避難訓練時には皇室ホーム前に避難したと聞いているが、広域避難場所について明示してほしい。(VD科保護者)
- 良い場所にあるのだから、もっと地域の方など外部の人が入りやすい環境にし、多くの人に学生作品をゆっくり見てもらえるようにすると良い。そういったことが契機になり、地元とのつながりも、さらに発展するのではないかと。(IL科保護者)

## 基準7 学生の募集と受け入れ

### 評価者意見

- 入学案内パンフレットは見る側の立場になって作られており、親切で、わかりやすかった。(IL科保護者)
- 学校見学参加時に講師が熱心で、親切だった。パンフレットも見ていて楽しくわかりやすかった。(G科保護者)
- デザイン分野校を2校見学、パンフレットは自宅でじっくり読んだ。学生本人は見学時の雰囲気大切にしていた。3年制学科への進学については、大学進学も考えたが、本人は一般教養に興味がなかったことと、ひとつのことを学ぶのに2年は短いと思い、決定した。(VD科保護者)

## 基準8 財務

### 学校評価委員会コメント

基準8「財務」については評価者からのご意見はありませんでした。

## 基準9 法令等の遵守

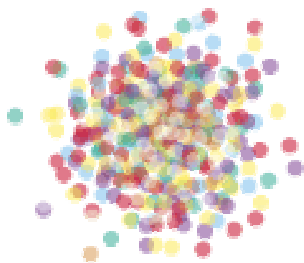
### 学校評価委員会コメント

基準9「法令遵守」については評価者からのご意見はありませんでした。

## 基準10 社会貢献

### 評価者意見

□最近数年で、CSR(企業の社会的責任)に対する社会的な要請がきびしくなって来たと感じる。本校は産業界に必要な人材を送り出すということで責任を果たしているが、現在は手先、指先の技術がある職人が減ってきている反面、パソコンでは創れないモノ、出来ない仕事がたくさんあり、そのような技術にスポットを当てるようなカリキュラムにも是非、取り組んでもらいたい。(鈴木康之氏)



T O K Y O  
D E S I G N  
A C A D E M Y

学校法人原宿学園

東京デザイン専門学校

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 3-62-8

\* 学校関係者評価報告書についてのお問合せ先

総合企画部 TEL 03-3475-0171